

議事録

- ・ 会議名称：朝霞地区訪問看護ステーション第6回連携グループの会
- ・ 開催日時：令和6年3月28日（水）
- ・ 開催時間：16：00～17：00
- ・ 開催方法：zoom 会議

【議題】

1. 令和6年度連携の会活動計画案について
 2. 協定書について
 - 1) 連携シートについて
 - 2) 管理者の押印について
 - 2) 協定書に締結後の
 3. 令和6年度目標について
- ・ 参加ステーション管理者：16名 欠席管理者：14名（別紙参照）

内 容

1. 開会
2. 挨拶：連携の会：代表鈴木氏

□コロナ禍の中始動された連携の会は目的・目標を持ち活動が開始された。今後も横のつながりを大切に、活動を継続してゆきたい。今後も引き続きご協力をいただきたい。

四市の取り組みとしては医療介護連携の促進の4つの取り組み（入退院支援・日常の療養生活支援・急変時の対応・看取り）の4項目があり、訪問看護ステーションもそれぞれの場面で取り組んでいる。今後も横のつながりを大切に、この会を継続できるようにご協力いただきたい。

2. 欠席者について連絡（別紙参照）
3. 令和6年度連携の会の活動（案）について。

推進メンバーで協議し、下記活動（案）を考えている。GWで協議していただきたい

- ・ 令和6年7月：第7回連携の会（SWAN カフェ案）
- ・ 令和6年9月：第8回連携の会 SWAN カフェ開催（基調講演：グループワーク）
- ・ 令和6年12月：SWAN NIGHT カフェ開催
- ・ 令和6年3月：第9回連携の会（協定書にかかる事）

4. 市ごと担当 Key ステーションのグループに分かれ議題について検討後発表。

【グループワーク 30分間】

【発表】

- ・ 朝霞グループ A（発表：鈴木氏）
- ・ 連携シートについて継続が良い。
- ・ 管理者の押印については各ステーション管理者から1枚ずつのサインが良い。
- ・ 報酬改定の同時改定が迫っているため、6月から実施に合わせ、5月に連携の会を参集し改定に合わせた確認の会が持てると安心という声があった。

- ・SWAN カフェの基調講演では、報酬改定の中の賃金について研修会の希望があった。
- ・連携の会の参集を多くできると良い。(相談できる場として、各市 Key ステーション毎の集りがあっても良いのではないか)

・朝霞グループ B (発表：野田氏)

- ・連携シートは提示されたもので良いという意見であった。
- ・管理者の押印については、ここに変更があったステーションを提出していただければ良いのではないか。
- ・6年度の目標について、有事のときに協力できるよう、気軽に助けあえる関係を維持してゆく為、さらに親睦を深めていくことを目標にして行ければと話があった。
- ・令和6年度のスケジュールを例年の定例として行きたい。
- ・SWAN カフェで親睦は深まったので引き続き親睦を深めてゆきたい。
- ・報酬改定に関してメンバーは皆管理者である為、相談できやすい関係が心強いので継続してゆきたい。

・志木市グループ (発表：浅野氏)

- ・報酬改定の部分で困りごとが多いため、つねに相談できる環境がほしい。
- ・相談できる環境を整えて欲しいという要望があった。

・和光市グループ (発表：高田)

- ・和光の key ステーションが現在決まっていず、事務局高田が代理で行っていくことになった。
- ・連携シートについては、このままで良い。
- ・押印については、各ステーションに Key ステーションが訪問することを5年度は実施したが Key ステーションの負担につながるため、負担が生じない方法を提示できれば良いのではという意見であった。
- ・制度改正の為学習会の希望、連携の会のメンバーとの情報の共有希望の声があった。
- ・SWSN カフェの基調講演も制度改正の研修会の希望があった。

・新座 A 市グループ:参集できず発表無し

・新座 B 市グループ (発表：廣田)

- ・連携シートについて、がん末期の治療については個々であり、オピオイドではなく持続の点滴ができるかできないかの表現で良いのではないか。コロナ対応の有無は削除で良いのではないか。・受入れ予想人数は必要はない。
- ・押印は、管理者の変更に伴い変更箇所だけの訂正で良いのではないか。
- ・令和6年度目標は、「みんなで団結しよう」と意見がまとまった。
- ・次年度スケジュールは、提示された案で了承が得られた。
- ・基調講演についての希望は、災害の体験談を聞くという研修会の希望があった。

まとめ

- ・グループワークで出された意見を共有し、課題については、推進メンバーと協議し、議事録で配信していきたい。
- ・同職種連携を大切にしていきたいという思いは共有することが出来た、どう維持していくのかは課題である。

閉会

司会・文責) 高田